

■ 建物構成比較表

	A 案	B 案	C 案
案の特徴	メインアリーナとサブアリーナを別フロアに配置して、多目的室（武道場）と弓道場をまとめた武道エリアを設けた案	メインアリーナとサブアリーナを同一フロアに配置して、多目的室（武道場・卓球等）、弓道場をまとめた多目的エリアを設けた案	メインアリーナとサブアリーナを同一フロアにし、弓道場を独立して配置した案
ゾーニング図	【1階ゾーニング図】 【2階ゾーニング図】	【1階ゾーニング図】 【2階ゾーニング図】	【1階ゾーニング図】 【2階ゾーニング図】 【3階ゾーニング図】
断面イメージ図			
メリット	- 日常的に利用頻度が高い多目的室（卓球室）を1階に配置しており、他のスペースとの動線の交錯が少ない位置にあるため、日常的な利用の際にスムーズな利用が可能。 - 多目的室（武道場）と弓道場を1ヶ所にまとめた武道エリアを形成することで、多目的室（武道場）を弓道の選手の待機スペースに利用するなどの連携した利用が可能。 - 各スペースをそれぞれ別の利用者が利用しても、適度に動線が分散されるので、動線が混雑することが少ない。	- メインアリーナを本競技場、サブアリーナをアップ会場とした、大規模な大会の開催が可能。 - 多目的室（卓球等）と多目的室（武道場）、弓道場を1ヶ所にまとめた多目的エリアを形成することで、それぞれの部屋を連携して利用した大会やイベント等を開催することができる。 - 他案と比べて、メインアリーナ以外の部分の高さを低く抑えることができる。	- 大規模大会の開催が可能。メインアリーナを本競技会場、サブアリーナをアップ会場、多目的室（卓球等）を、選手共用の休憩室、控室、更衣室等に利用でき、ゆとりのある大会運営や様々な大会形式に対応が可能。 - サブアリーナと多目的室（卓球等）を連携利用した小規模な大会の開催が可能。 - 弓道場を3階に独立して配置しているため、弓道に適した静かな競技環境が確保できる。 - 他の案に比べて、建築面積が小さい（建物周辺にゆとりがある）ので、多くの駐車場の確保や、余裕のある外構計画が可能。
デメリット	メインアリーナを本競技会場、サブアリーナをアップ会場とした運用をした際、選手と観客者の動線が交錯するので、大規模な大会を開催しづらい。	- 他案と比べて、建築面積が大きい（建物周辺にゆとりがない）ので、建物周辺の駐車場の確保や余裕のある外構計画が難しい。 - 弓道場の矢を射る向きと方位の関係があまりよくない。	- メインアリーナ、サブアリーナ、多目的室（卓球等）をそれぞれ別の利用者が利用する際、エントランスホール周りの動線が混雑しやすい。 - 建物構成が3層になるため、廊下や階段などの共用部分の面積が大きくなる。 - 弓道場の選手の待機スペースやフリーなスペースが狭い。